

日本共産党 青森市政だより

発行 日本共産党青森市議団
〒030-0822 青森市中央1-22-5 市議会日本共産党控室

連絡先

市議会日本共産党控室 ☎ 017-734-1111
(内線) 6017
直通・FAX兼用 ☎ 017-722-8904
メールアドレス kyousant@grace.ocn.ne.jp
日本共産党東青地区委員会 ☎ 017-777-7241

ご意見・ご相談をお気軽にお寄せ下さい。

議会 報告



サフラン

市内
中学校
校則

ツープロック髪型 なぜ禁止？

教育目的に照らして、ただちに校則の見直しを

『子ども達が校則に納得できているか』『その校則をなぜ守らなければならないのか』説明されているかどうかという点から校則の見直しを図っていくことが必要であり、なにより憲法と子どもの権利条約の見地から校則を見直す立場に立つことが求められています」と強調し、「子どもたち一人ひとりに、自分の意見を主張する権利があることを教え、子どもたちの意見も取り入れて、一緒に校則をつくる

村川みどり市議は「青森市内の19校中10校は、男子中学生のツープロックを禁止している。その理由はなにか」と質問しました。成田一二三教育長は「髪型は極めて個人的なもので、どういう髪型にするかは、個人の判断に委ねられるもの」としながら、「市内の高等学校でツープロックを禁止している学校に、受験時にその髪型でいくのは難しいと思う」と答弁しました。

「ツープロック(※)などの特定の髪型の禁止」「髪の長さ結び方の指定」「マフラーの着用禁止」「靴下の色、長さの指定」——いま、児童・生徒が納得できない校則について、全国的に問題となっています。日本共産党青森市議団は9月議会で「校則は児童・生徒の納得のうえに作られるべきだ」という立場から、当事者から実際に寄せられている声を紹介しながら市の見解をたどりました。

※ツープロックとは、頭頂部の髪を長めに残し、サイドや後頭部を刈り上げて段差をつける髪形のこと。



気候危機対策——

請願には賛成、決議には反対？

9月議会に「青森市の温暖化対策を考える会」という市民団体から、ゼロカーボンシティ宣言と意欲的なCO₂削減計画を策定することなどを市に求める「気候変動対策に関する請願」が提出され、賛成多数で採択されました。その一方で、全国的に自治体や地方議会が「気候非常事態宣言」や「決議」があがっている中、青森市としても危機克服のために取り組みの推進を図

市内の児童・生徒から寄せられている校則に対する意見

- ・暑くても腕まくり禁止。でも、先生は腕まくりしている。
- ・暖房が壊れている。寒いのに防寒着やブランケットの使用禁止。でも先生は防寒着を着ている。
- ・前髪は眉毛より上。
- ・女子はツインテール、ポニーテール、男子は横髪が耳にかかるのは禁止。
- ・最近やっと持参できる飲料に麦茶が許可されたが、飲めるのは休み時間か先生が許可したときだけ。こまめに摂取するのが水分補給ではないのか。
- ・日焼け止めの使用禁止

など(※8月に日本民主青年同盟青森県委員会とともに実施した街頭アンケートから)

インを参考にし、校則の見直しの取組を進めるよう要望しました。

会派の態度

条 例 ・ 意 見 書		共	令和	自民	市ク	公	無
青森市の気候変動対策に関する請願	採択	○		○	△	○	○
気候非常事態に関する決議	否決	○			△		○
コロナ禍における大学等の授業料の引下げ及び大学等への財政支援を求める意見書	可決	○		△	○	○	○

共→共産党、令和→あおもり令和の会、自民→自由民主党、市ク→市民クラブ、公→公明党、無→無所属
(○→賛成、×→反対、△→一部賛成)

学校施設の「防火扉」 法令点検違反

ただちに改善を！

村川みどり市議は、9月議会で学校施設の法令点検の対応状況を調査し、ただちに改善を求めました。

「防火扉」は火災が発生した際、子ども達の安全を守るためにも、きちんと作動するようにしておかなければいけません。しかし、都市整備部建築営繕課が毎年公共施設の点検している「防火扉」の不具合を平成31年から令和2年までの3年間にわたって放置していることがわかりました。

(表参照)

村川市議は「なぜ放置しておくのか？ただちに改善すべき」と質問したのに対し、小野正貴教育

村川みどり



小学校－6校
造道、高田、筒井、浜館、浪館、大野
中学校－1校
戸山

部長は「今年度中に対応します」と答弁。

子ども達の命に関わることを、予算がないからと言って放置することは許されません。同時に市民に対しては厳しく法令違反を指導しながら、身内である公共施設の法令違反に甘い対応は、市民の理解が得られないことも指摘しました。

感染力の強いデルタ株がまん延

対策強化を急げ

全国で「デルタ株」といわれるこれまでに以上に感染力の強い変異株が猛威をふるう中、青森市でも新規陽性者の多くがデルタ株に置き換わっています。赤平市議は一般質問の中で「ワクチンを接種していても感染する」と報告されたり、これまでになかった子どもへの感染も広がっていることをふまえて、児童福祉施設などへ検査の対象を広げるべきだ」と質問。

赤平ゆうと



保健部長は「児童福祉施設などで陽性者が発生した場合、関係者などへ広く検査をおこなう」と答えましたが、赤平市議は「現状では、結局なんらかの症状が出なければ検査まで結びつかない。広く検査をとるとしても、必要だと判断されなければ検査がされない人も出てくる」と強調。「いま、保育園の関係者からは『子どもたちへ感染が広がることを考えるととても不安。もし、陽性者が出れば園としては関係者全員を検査してほしいが対象とならなければ費用負担が心配だ』という声も出ている。市として一斉・定期的な検査という体制をつくるべきだ」と訴えました。

万徳なお子



米農家を守れ —米価下落対策

長引くコロナ禍の影響で米の需要が落ち込み、20年産が過剰在庫となり、20年、21年に米価は連続して下落。地元紙でも「つがるロマン」などでも60キロ8000円台となる見込み」と米生産原価を下回る水準となることが報道されました。米生産者からも「このままでは米が作れなくなる」と声が寄せられています。万徳なお子市議は、一般質問で米価下落に対する市の対策を質問しました。大久保文人農林水産部長は、「飼料用米などへ転作した場合の補助金や、収入保険への加入推奨を図っている」と述べましたが、これは米価下落の原因となる過剰在庫の解消にはなりません。万徳市議は「政府の対策は過去最大の減反押しつけにとどまった」と批判し、「政府が過剰米を買い入れ、コロナ禍での生活困窮者への食糧支援に活用せよ」「ミニマム・アクセス米の輸入を中止せよ」という国会質問を紹介。「青森市はとりわけ米づくりが基幹産業。国や県に対し機会あるごとに米価下落の抜本的な対策を求めるべきだ」と訴え、飼料米への転作補助金について、農家から「せめて12月上旬に支払ってほしい」との声が出ていることを紹介し、対応を求めました。

藤原 浩平



アオモリトドマツの木を 本庁舎敷地に植えては

藤原浩平議員は、市が「青森市の木」として定めているアオモリトドマツを市役所本庁舎の敷地に植えるべきではないか」と予算特別委員会で質したところ、館山新総務部長は、「現時点で植栽については考えていない」と答弁しました。その理由として館山総務部長は「平成24年青森市景観審議会において、市役所新庁舎新築工事について審議した際、樹木医の委員及び当該審議会から、枯死する恐れが高いため、緑化の植栽計画に入れないでいただきたい」との意見があり、選定しなかったものだ」とし

浪岡高校を守れ



天内しんや

青森県教育委員会は、県立高校再編計画案（以下計画案）を発表し、青森西高校と浪岡高校を令和9年度に統合し、浪岡高校を閉校する考えを示しました。浪岡高校は、地域イベントへの協力や、ボランティア活動への参加、毎年恒例の「空き缶壁面」など、地域に溶け込み、まちづくりの中核的な役割を果たしてきており、浪岡住民からも「山を越えた距離のある浪岡に高校を残して欲しい」と存続を求める声が多くあがっています。こうしたことをふまえ、天内慎也市議は一般質問で「浪岡高校の統廃合に反対だ」とし、市も浪岡高校を閉校する計画案に反対している理由について質問しました。三浦大延浪岡振興部長は「一つに、これまで『浪岡高校の統廃合についてかなり慎重に考えて欲しい』などの意見が全く反映されていないこと。二つに、浪岡高校の生徒が地域の活性化に大いに貢献したことを考えると、浪岡高校が閉校されることは浪岡地区の核を失いかねないこと。三つに、計画案に示されている全国募集について浪岡高校が先駆的なモデルとなりうるなどが市が反対する理由だ」と答弁。天内市議は「このまま県の計画案が強行されてしまえば、町村・郡部の学校閉校が続く、町村・郡部に学校が残らず市部だけとなってしまう。実際に見合った少人数・小規模校化に方針を替えるべきだ」と指摘。「住民と共に力を合わせて、浪岡高校が存続できるように最後まで頑張りぬく」と訴えました。